

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2021年

2月

186号

正しい人生の見方!

寒水の

一滴にしる

盛る

上がる

玉川か



宗教法人 真生会

仏の種を育てよう！

一人が一人、仏縁にお誘いしよう！』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）



仏さまの声短冊拝受



**コロナ禍中
雪化粧の初詣!!**
大晦日夜半より
十五センチ程の積雪
があり、数年ぶりの
雪の初詣になった。

光徳会館屋上にて



**慈悲広大の鐘
初鐘つき!**

大阪教会ご宝前



**初めての
リモート初詣!**

左義長の儀・新年祝寿祈願大法要

一月十七日（日）、総本山、大阪教会において、十九日（火）名古屋教会において新年祝寿祈願大法要が行われた。緊急事態宣言下のため、コロナ感染対策として役員代表による代参拝のみで厳粛に営まれた。



会長先生のお祓いの儀

◆厄除け節分祭◆



会長先生の運勢解説



谷口教会長お祓い / 大阪教会

開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁



人生には三度慎重に考えなければならぬ岐路があります。一度目は職を定める時、二度目は結婚する時、三度目は親の死んだ時です。この時に考えが間違つたら、生涯禍根を残し失敗の道を歩むのです。

こんな時は、親か信ずる徳人に添削てんきやくを受けるのが賢明の策です。

恋愛結婚に反対された同い年の若いカップルが相談に来られた。良さそうな青年と優しく美しい娘さんなのに、なぜ親が反対するのか。表面上は良さそうでも中味の考え方が一人前に成長していないから反対されているのです。経済力はあるのか、職業に不安定はないか、青年として結納金ぐらいはためているのか、料理や家事はしっかりできるのか。親は勝手かもしれないが、自分の経験から子供には失敗させたくない、時代遅れのようなことを言いますが、これが親心であると素直に耳を傾ける姿勢が大切です。親から見られて合格点が取れれば必ず賛成して協力を惜おしまないでしょう。

(真実に生きる81号より)

ぶし眞教法話

会長 田中庸仁
たなか つねひと



凡夫^{ほんぶ}を教え導いておられるのです。

法華経に「末法の衆生は顛倒^{てんどう}している」とあります。つまり、現実の姿は仏さまの真理から見るとひっくり返っており、現実の反対側に幸せになるための生き方があるのです。世界に目を向けると、トランプ元大統領以来、世界の国々には自国ファーストが広がり、いがみ合っています。個人レベルでも自分だけ

◇正しい人生の見方

二回目の緊急事態宣言が延長され、コロナ感染症の勢いが収まりません。仏さまは、この現実を通して私たちに何を悟らせようとしておられるのでしょうか。

「常説法教化^{じょうせつぽうきょうけ}」仏さまは、いつでも、どこでも、だれにでも、法を説いて正しい人生に私たち

が良ければいいという利己主義が蔓延し格差社会・差別社会が広がっています。仏教は平等主義の教えであり、人種、性別、職業、国の区別なくすべての人が幸せになれるという教えです。しかし、現実逆行しています。

コロナ禍では「人と会ってはいけません。交流を避けて人との距離を取ること」「会食を控える。家族や仲間でも黙食する」「テレワークで職場に行かない」などが叫ばれています。これによつて社会生活から隔絶され、《孤独↓孤立↓不安↓絶望↓自殺》に至る人も少なからずいます。大変痛ましく悲しいことです。コロナ禍が長引いていることにより「人と会いたい。家族と楽しく暮らしたい」「職場に行きたい。働きたい」と誰もが心の底から思うようになりました。これこそが仏さまの説法教化なのです。つまり、人間生活のあるべき姿に気が付きなさいということなのです。

「諸法無我」人は孤独りでは生きられない、つながり合い助け合つて生かされていくという、当たり前前にことに気付かせてもらったのです。

◇「名こそ惜しけれ」公（おおよけ）の意識

日本人の心の奥には「名こそ惜しけれ」という精神が流れています。つまり、

先祖、親、恩人、家族など今日までお世話になった多くの人への「恩義や家名、自分の立場に恥はじない生き方をする」これこそが世界に誇るべき日本人の心に根付いた民族性であり世界に誇るべき精神文化です。日本では災害時や非常時に暴動や略奪はほとんど起きません。物資の配給も整列し順番を守り横入りなどしません。公おおやけの意識「世の中や人さまのため」という精神が根付いています。

しかし、現代は個の意識、私の意識が強くなり、日本人の美德が失われつ、あります。緊急事態宣言下で模範を示すべき国会議員が銀座のクラブを遅くまで飲み歩き、スクープされると嘘うそと言いついで塗り固め、挙句あげくの果てに辞職した彼らには「名こそ惜しけれ」の恥の心も公の意識も欠如していたのでしょう。情けないことです。

反面、テロの凶弾きょうだんに倒れるまで、一人の医者でありながら異国のアフガニスタンの貧しい人たちの救済と国土の復興のために身を捧げた中村哲医師、ミャンマー、カンボジア、ラオスなど東南アジアの開発途上国で治療が受けられず、苦しむ貧しい人々に無料で医療提供をするジャパンハートの吉岡秀人医師の活動は、「救えない命もあるが、亡くなっても感謝される医療がしたい」と患者

に寄り添う活動には、高潔な人類愛、公おおやけの意識がその根底にあると思います。日本人の誇りであり、見習うべき生き方です。

◇信仰による価値観の転換

宗教の価値観と一般常識の価値観は180度違います。仏教は現実をありのままに受け入れます。欲の深い人には欲しいものを与えよ。鉄砲玉は鉄板ではなく真綿まわたで受けよ。貧しき者は幸いである。(キリストの教え)

一般的には高学歴、高収入、高い地位があれば幸せと思えますが、現実が学歴ができ、地位ができ、お金がたまると失いたくないというプライドと不安が大きくなり、反対にもっと欲しいもっと欲しいの貪欲とんよくにより争いが起き、奪い合い、略奪りやくだつし、果ては戦争が起きます。

豊臣秀吉は天下人てんかひとに登りつめました。貧しく地位の低い時の方が幸せでした。地位と権力けんりく、莫大ばくだいな財力を持つてから疑心暗鬼ぎしんあんきになり愛する弟一族を殺し、裏切りを恐れて大阪城には多くの抜け穴を造り、死しに際ぎわには我が子と豊臣家の行く末を心配し、五大老に頼む頼むと懇願こんがんし、それでも安心できないままこの世を去り、まもなく豊臣家も滅びました。地位や権力や財力が本当の幸せでは

ないので。開祖さまは「法華経がわかると困難な問題が起こるほど、ワクワクして勇気が湧いて来る」と試練をチャンスに受け止められました。これこそ信仰の力であり、信仰による価値感の転換です。

◇強い人に宗教はいらない？

人間は本来、大自然の中では弱い存在なのです。猛獣もうじゅうのように一匹狼では生きられません。仲間と協力して知恵と道具を使って生き延びて来たのです。

自分が強いと思っている人は宗教はいらないと思い、祈ることもしないでしよう。宗教を信じる人は、自分の弱さが解っているからこそ、神仏に頼り祈ることができるのであります。そして、信仰する人は神仏に護とたりられていると実感し、常住じょうじゆ此説法しせっぽう、常在じょうざい此不滅しふめつ「仏さまは、いつも隣となりに居て励まして下さる。いつも隣に寄り添い護とたりっていて下さる」と思えるからこそ、どんな状況の中でも「自分で蒔いた種は自分で刈り取る。この世で起きた問題はこの世で解決する」という困難を乗り越える活力が湧いてくるのです。祈ること、神仏を信じ頼ることとは弱さではありません。「柳に雪折れなし」弱いからこそ心が柔らかくしなやかになれ、心が折れないのです。

◇死ぬまで勉強

一月の末、七十を過ぎた男性会員が総本山に参拝され、「会長先生、年明け早々仕事が忙しく、やつとお参りに来れました。今までは実力もないのにお世話になってる社長である兄夫婦に不満が多く、文句ばかり言って喜ばせませんでした。この頃逆らわずに素直にハイと受けられるようになったら、社長夫婦も穏やかで優しくなり、毎日が有り難く楽しくなりました。四十年以上前から、開祖さまに文句を言っではいけないと教えて頂いていたことがやつと解りました。何十年と教会に通いながら、何を聞いていたのだろうと恥ずかしい思いで反省しています。」

教えは知識として知っていても、なるほどそうだと腹に落ちた時、霧が晴れるように人生が明るくなり、希望が見えるのです。この方は問題がなかなか解決しない時も、足踏みしても後退せず、教えを辞めやずに通い続けていたからこそ、悟れる時が来て毎日が楽しくなったのです。くしゃくしゃの洗濯物でも、最後のアイロン仕上げが上手なら、ピシッとします。「年をとっても遅いことはない。学者といって死ぬまで学びです」というのが開祖さまの教えです。

釈尊物語

⑦

◆◆善き友がすべて、信仰の宝◆◆

ブツダはしばしば、善き友を持つことがいかに大切であるかを説かれました。

ある時、釈迦族の住むサツカラという村にとどまられていた。その時、侍者であるアーナンダがふと、このような質問をしました。

「大徳よ、よくよく考えてみると、わたしどもが善き友を持ち、善き仲間の中にあるということは、すでにこの聖なる道の半ばを成就したに等しいと思われま

す。このことはいかがでありますか」
師の答えは、まったく彼の意表をつく

予想外のものでした。

「アーナンダよ、それは違う。そういうふうには考えてはならない。アーナンダよ、善き友を持ち、善き仲間にあるということとは、この聖なる道のすべてである。そのように考えなければならぬ」

まったく意外な言葉に、ブツダの真意がわからず、怪訝な顔をしているアーナンダにブツダは具体的な例を挙げて次のように説き教えられました。

「アーナンダよ、それは、このことを考えても解るではないか。みんな、わたしを善き友とすることによって、老いねばならぬ身でありながら、老いの寂しさから自由になることができるではないか。病まねばならぬ身でありながら、病

に打ち勝つことができるではないか。あるいはまた、死なねばならぬ身でありながら、死の恐れから免れることができるのではないか。アーナンダよ、このことを考えてみても、善き友を持ち、善き仲間の中にあるということが、この聖なる道のすべてであるという意味が解るではないか」

そして、ブツダ自身が自らを指さして、わたしは諸君の「善き友」だといっておられるのです。

僧伽さんかすなわち仏教教団というものは、もともと、そのような善き友の集まりに他ならないのです。(相応部経典「半ば」)

言い換えれば、善き友とは「不断の友」

とも言える。不断の友とは、互いの利害損得を超えて信頼でつながれている友である。

つまり、勇気をもって苦言を呈し、自分の足りない所、行き過ぎた所、間違っている所を教えてくれる友。「よく教えてくれた」と素直に受け止める友こそが、「不断の友」善き法友」なのです。

嫌われたくないから、気づいていても、見て見ぬふりをする。せっかくの助言にも腹を立て、相手を悪く見て敵視する。楽しい時や都合の良い時だけの遊び友達、飲み友達、旅行友達のこととは、不断の友、善き友とは言わない。

互いが信頼し、教え合い、支え合い、励まし合う真の友になりましょう。

今月の運勢（3月）

（2021年3月5日～4月3日）

一 白水星

心が通じ合う人たちと手を握れば協力が得られて吉となる。親しくなかった人も近づいてくるが、日和見主義の人とは付き合わない。大きなことは願わず、コツコツと小さなことを積み重ねて行く。

二 黒土星

一陽来復。落ちた力が少しずつ回復して行く。自分の出所進退にも問題なく、集まってくる仲間にも安心できる。すべてが元通りになるので大いに積極的に行動すればよい。

三 碧木星

何事も一貫性を持って

行動すること。思い付

きやその場主義はいけない。互いの長所を發揮し協力すれば何事も叶う。動機も正しく方法も正しければ継続すれば吉となる。

四 緑木星

幅広く大いに活躍してきた羽を休め、心身ともに休養を取り、英気を養い力を充実させよう。全体がよく見え、周囲からも注目されているので、派手な動きは控えること。

五 黄土星

新しいことを始める時ではない。今日まで進めてきたことを完成することに全力を傾けよ

う。上位の人に助言を

求めれば助けも得られる。スピード感を持って完成させよう。

六 白金星

柔よく剛を制する。目上の人を信頼し、素直で柔和な姿勢で従えば、大きな力で守られる。力任せに行動しては利がない。日頃より上下の分をわきまえ、和を持って行えば、万が一の心配はない。

七 赤金星

現実を喜び、何事も感動を持って行えば、何事もうまくいく。動機が正しければ万事良好に進む。何事にも動ぜず無我、無私の心で行

えば、人が従い応援してくれる。

八 白土星

アイデアも冴え、脚光を浴びて華やかな時を迎えている。とにかく明るく振舞おう。大きなことをする時ではないが、ルールに従って正しく行えば、小事はうまくいく。争いごとは避けること。

九 紫火星

人生は未完成にこそ魅力がある。目的達成の一手手前まで来ている。目の前に困難が横たわっているが、一筋の光明を信じて険難を渡る時。諦めずに進めば必ず達成できる。

「まごころ誌代」御礼

笹原正子	樋口恵美子	黒田京子	大西佑樹彦	半澤照子
今井純司	樋口容子	岩田三代治	豊田直正	安田初子
宮島りえ	坂本育身	平工好光	豊田真悠子	伊東 晃
浅井佑季子	池澤幸代	平工初子	多田祥子	佐藤百々枝
小村一紘	坪井佑介	足立和美	澤 君美	佐藤光洋
谷口祐晟	三村千佳	鈴木光隆	澤 芳子	岸本昌子
谷口祐子	今園達也	多田敏春	早野雅大	岸本好正
東島佑樹	林田嘉聖	京川春男	早野起世	高橋けさ江
東島杏実	奥田佳代	古代あやこ	早野桂子	河野和子
東島杏衣	永田雅子	多田佳央	宮田裕加里	家安久子
荒木敬依子	大下裕子	加納啓至	宮田雄貴	東森敦巳
湊 琉碧	出田ときこ	亀井善二	加藤圭子	木村茂樹
某女	出田 梓	亀井善広	田中伸佳	福元正子
久保香代子	長尾かれん	亀井由実子	大橋末子	佐藤ひとみ
細谷早予子	松尾定洋	田中啓予	土川順寛	河合健司
村上視佑記	後藤清美	田中宏明	土川恭代	河合愛実
平口富子	横山都久子	田中佑季子	土川康二	河合詩遠
赤阪 史	多田正幸	田中庸仁	土川廣美	河合里紗
滝山恵依子	多田道子	水田祐記子	横山知津子	河合央真

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもつて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

あなたの『いのち』には
存在する意味がある
この世に
どうでもいい『いのち』
あなたに代わる『いのち』
などありません
あなたは仏に守られた
唯一無二の
仏の子なのだから

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
T E L 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
T E L 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
T E L 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市市中川区九重町 3 - 10
T E L 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り
します。詳しくはお尋ねください。